

『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

〇〇〇高校 〇〇 〇〇

1. 食分野における主体的・対話的で深い学びの授業計画

この単元で育みたい力を「生活者としての実践力」とし、授業で身に付けた知識や技術を日常の食生活に活用できる力とした。そこで、単元計画は学習内容と日常をつなぐ視点を重視して行った。

【座学】	【調理実習】
<ul style="list-style-type: none">調理実習の内容とリンク主体的、対話的な学習形態 KP法、シグソー法	<ul style="list-style-type: none">様式・調理法・食材等の重なりがないように計画回を重ねるごとに重点項目（おいしさ+衛生+環境+手際）を増やしレベルアップ献立の改善案について考える課題を組み込む

2. 公開授業の研究協議において出た意見

主体的・対話的で深い学びについて

- 単元を通して貫く問いを意識させながら指導していくことが重要。
- 教師の発問ひとつで生徒の学びが深まることを実感した。
- 生徒にとってリアリティのある題材を選ぶことが実践力につながる。

公開授業について

- 前時までの学びが、本時の学習活動に生かされ、生徒たちが意欲的に活動できていた。
- 事前に家族にインタビューをさせていたことで実生活と学習内容が繋がった。
- 振り返りシート…振り返るだけでなく、先が見通せる。グループ協議でも活用していた生徒がいた。
- 視覚的な指示の出し方、声かけ、机の配置、PCの利用制限等において参考になった。
- 献立の改善案を作成させる際、視点を絞って改善案を考え、他のグループと比較、さらに改善という流れはどうか。朝食・昼食・間食を固定し、夕食だけを考えさせても良いのでは。
- 献立作成の視点に気づかせたいのか、問題に対する改善案を立てさせたいのかを明確にしてグループ活動をするとうい。
- グループ協議後、他のグループの案を見て回る際、生徒同士のより活発な会話を期待したい。改善案を見て回るだけでは、どこが良くてどこが悪いのか理解できない生徒もいるため、発表シートに「他の班へのアピールポイント」を記入させたり、数グループだけでも発表させたりするとよい。
- 深い学びにつなげるために、グループ協議の際、「NGワード」を決めておくとうい。

3. 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上での留意点

- 単元を通して、生徒にどのような力を身に付けさせたいかを考え、指導計画を立てること。
- 教師が教える場面と生徒たちに思考・判断・表現させる場面を意図的に位置付け、関連させながら指導すること。
- 生徒自身が、学習の見通しを持てるようにすること。
- 生徒が解決したいと思うような課題・問いを設定すること。
- 異なる意見や価値観が表出されるテーマを選定すること。
- 何のために対話を行うのか、生徒たちが目的意識をもって対話を行えるようにすること。
- 学習したことを振り返る十分な時間を確保すること。
- 協働学習には、クラス内でよりよい人間関係の構築が前提となる。

4. 公開授業を終えて

小・中学校の学習内容との系統性を十分に把握し、日常生活と学習内容をどのように関連させ展開するかという視点をもって題材を構成していくことが重要であると感じた。また、教科の特質に応じた見方・考え方を働かせることができるようなアプローチの仕方、発問等についてさらなる研究が必要だと感じた。

評価については、単元学習後に備えておくべき力を明確にし、その力を検証するフォーモンス課題を与え、ルーブリックによる評価も取り入れていきたい。